

： 2010FIFA ワールドカップのスペインにおける民族アイデンティティの影響  
The Effect of Regional Identities on Spain in the 2010 FIFA World Cup

1K07B139-6

指導教員 主査 石井 昌幸 先生

辻 翔子

副査 リー トンプソン 先生

【はじめに】

スペインは長い間、「サッカー界の七不思議」と言われてきた。世界一の国内リーグを持ち、数多くのタレントを擁しながら、何十年間も国際大会で無冠だったからである。「審判の判定に恵まれなかった」、「攻撃的なサッカーのため、トーナメントに不向きである」などの理由も挙げられたが、最も大きな理由は、民族問題による「まとまりのなさ」だとされてきた。代表戦の観客が少なく、視聴率が低いことも、これに起因すると考えられてきた。

しかし、2008年の夏、スペインは44年ぶりに欧州選手権を制覇し、今年(2010年)の夏、ついにワールドカップで初優勝を果たした。このときの代表チームが見せた圧倒的なまでの団結力と、その活躍に熱狂した国民の一体感は、なぜ、いかにして生み出されたのであろうか。本研究では、選手の海外移籍、地域別視聴率、代表選手の出身地、現地メディアのコメントなどの検討を通して、スペインの多民族性・地域主義と、スペイン国民としての意識が、ワールドカップ優勝によってどのように影響を受けたのかについて考察する。

【第一章 フランコの独裁体制】

第一章ではスペインの民族問題の背景であるスペイン内戦とフランコの独裁体制時代について論じる。1975年まで40年近く続いたフランコ総統による独裁時代では、カタルーニャ語やバスク語などの地方言語が禁止されるなど、地方の文化が厳しく抑圧された。唯一わずかな自由が認められたのがスタジアムだったため、少数民族はサッカーを通してしか自己表現することができなかった。民主化を経た現在でも、地方の人々はフランコ政権の象徴であったレアルマドリードやスペイン代表に対して反感を抱いている。バルセロナがレアルと対戦する「クラシコ」が異常な盛り上がりを見せるのも、それが「地方対中央」、「自由対権力」を象徴するという歴史的背景によっている。

【第二章 地域アイデンティティ】

第二章では国内で特に独立意識の強いカタルーニャ地方とバスク地方を取り上げる。それぞれの地方には独特のサッカー文化があり、バスクのチームであるアスレティック・ビルバオは創立当時から「バスク純血主義」を貫いてきた。また、カタルーニャ地方にもバスク地方にも「代表チーム」が存在し、毎年クリスマスには他国の代表と親善試合を行う。しかし、現状では「お祭り」としての扱いでしかなく、これらのチームの国際的承認を求める運動は今なお続いている。

【第三章 2010FIFA ワールドカップにおけるスペイン】

このように、地域主義の強いで、代表チームがワールドカップに優勝したことは、特別な意味を持った。第3章では、この優勝が選手と国民に、どのような影響を持ったのかを検討する。決勝戦は、史上最高の全国視聴率を記録し、地域を問わず人々は「私はスペイン人」と叫び、スペイン国旗を振った。しかし一方で、その熱狂の度合いには地域差も見られた。カタルーニャやバスクでは他地域に比べて視聴率が低く、スペインを応援するぐらいだったら相手チームを応援すると語る者も依然として存在した。決勝前日のバルセロナでは、独立を求める大規模デモすら行われた。

【第四章 新時代の幕開け】

2010年ワールドカップでの優勝はまた、スペインに新たなアイデンティティの在り方を生み出した。独立デモに参加しながら、次の日にスペイン代表を応援したり、片手にスペインの国旗、片手にカタルーニャの州旗を持ったりするという現象が見られるようになったのである。”Unity”と”Autonomy”という一見矛盾する概念が共存する、いわば「ダブルアイデンティティ」は、どのようにして生み出されたのか。本章では、その原因について考察した。ボスマン判決以後のスペイン人選手の海外進出、スペイン国内における移民の増加、クラブチームのマーケティングの成功、フランコを知らない世代の台頭、代表チームにおけるカタルーニャ人選手の割合の高さ、不況による現実逃避などが、その要因として考えられる。カタルーニャやバスクの住民でさえ、すべての人が独立を求めているわけではないことも原因のひとつであろう。

【おわりに】

ワールドカップ優勝によって、スペインはこれまで経験したことのない国民的一体感に熱狂した。大会で得た自信によって、民族問題や経済問題を乗り越えられるとの期待すら生まれた。しかし、大会が終わった今、その一体感は「幻だった」と語る者もでてきた。先日チューリヒで行われた2018年大会招致の代表団にはマドリード関係者しか招集されなかった。スペイン代表は、再び「暗黒時代」に戻るのだろうか。しかし、本稿で明らかにしたとおり、新しい流れは確実にスペイン社会に根づきつつある。スペイン代表は、今まさに重要な過渡期にあるのである。